

1	チーム名 (研究対象領域・教科) 小学部 自立活動③
2	メンバー   小学部教員 5名
3	チームのテーマ コミュニケーション手段の獲得について
4	対象児童生徒に願う主体的な姿 自分なりの方法でやりたい事を伝えようとする姿
5	<p>研究仮説</p> <p>自分の思いが伝わる経験を重ねることで、意思の表出が増えるのではないか</p> <pre> graph LR     A[大好きな活動の中で「やりたい」という気持ちを伝える場面を設定] --&gt; B[自分の気持ちが教師に伝わり、やりたい事ができる]     B --&gt; C[自分から伝えようとする気持ちの育ち]     C --&gt; D[・特定の人や場面だけでなく様々な状況でも伝えることができるように] </pre>
6	<p>研究実践の内容</p> <p>A君の大好きな遊び (好きなCDを聴く) を通して写真カードや指差し等のコミュニケーション手段の獲得を目指す。</p> <p>4月～5月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カードを選ぶことの意味をまだ理解していない。(提示されると身構える)</li> </ul> <p>「カード」→「CDを流す」を繰り返し行う</p> <p>6月～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カードに手を伸ばす。(カードに手を伸ばすことで、CDが聴けるとは結びついていない。)</li> </ul> <p>選択してからCDを流すまでの時間を短くする 選択しやすい姿勢、カードの厚さ重さ等の検討</p> <p>9月～10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3種類程度の写真の中から好きなCDデッキの写真を見分ける。</li> </ul> <p>カードの種類 (聴ける曲の数) を増やす 複数のカードの提示の仕方の工夫 (同時、1枚ずつ)</p>
7	<p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本当の意味で「カードに触る」→「CDが聴ける」という因果関係を理解できているかという見取りの難しさがあるため、複数の教員での観察・意見交換が必要。</li> <li>カードの意味を理解し、自分のやりたい方を選ぶとしても上肢のまひによる機能的な困難さをどのように改善していくか。(教材の工夫やポジショニングの見直し等)</li> <li>A君の「情報を受け取る」→「理解する」→「身体を動かす・表情に出す」という一つ一つに時間が必要であることを教師が理解し、A君のスピードに合わせてカードを提示したり言葉かけするタイミングを図ったりすることが大切。</li> <li>自分で伝えようとする場面を設定することが大切。</li> <li>カードを2択にするのか3択にするのか等、A君の理解度の見極めの難しさ。</li> </ul>